

(活動報告書様式)

団体名	山形大学 SCITA センター学生スタッフ		
事業名	山形に科学技術分野を担う人材を！		
助成事業区分	協働助成事業（一般型） 【県政課題：科学との触れ合いの場の提供による子どもたちの「科学する心」の醸成】		
団体の 所在市町村	山形市	事業費	334,540 円
		うち助成金額	334,540 円

■事業目的

山形県で問題となっている人材不足の中で、特に、科学技術分野を担う人材を育成するため、山形県内の各地で科学イベントの開催・出展を行う。これにより、子供たちの科学への興味・関心を高め、気軽に親子で科学実験教室に参加してもらえ、場を提供する。理科学習の普及活動を促進するための本学のプロジェクトである「やまがた未来科学プロジェクト」に基づいて、科学的思考能力を備えた将来の山形あるいは日本を支える人材を育成することを目的とする。また、新型コロナウイルスの感染対策で科学に触れる機会が少ないため、感染対策を徹底して地域で科学体験教室を実施することにより、スタッフ同士のチームワークをさらに高めることやイベントを通して地域の人々との関りを増やすことができる。地域活性化にも繋がり、よりSCITAセンターの知名度を上げ、科学普及の活性化を図る。

■実施内容

①「産業科学館イベント」

6月5日(日)、10月16日(日)、12月11日(日)、1月8日(日)に山形市産業科学館で行った。芳香剤、人口いくら、全反射カード、ソーマトロップ作成を授業形式で行った。作り方や原理をスライドを用いて説明した。参加者は事前募集で募った。

②「SCITA 秋の科学実験まつり」

イオンモール天童2階イオンホールで9月25日(日)に行った。光の本の読み聞かせと実験ショーの「理科読」、芳香剤・スライム作成、クラゲ・展示品の紹介を行った。参加者は事前募集で募った。

③「南部公民館まつり」

10月8日(土)、9日(日)に山形市南部公民館でプラ板作成を行った。来場者が順番に作成する。プリントを用いて原理を説明した。南部公民館が参加者を募った。

④「おやこワクワク科学実験教室」

2月19日(日)に山形県みはらしの丘ミュージアムで行った。偏光板万華鏡作成を、授業形式で行った。はらっぱ館が参加者を募った。

■事業の成果及び今後の展望

①事業の成果

産業科学館イベントでは、毎回40人以上の参加者がおり、実験教室終了後のアンケートでは、「また参加したい」、「科学に興味をもつことができた」など多くの科学の興味に関する感想をいただいた。SCITA 秋の科学実験まつりでは、理科読、芳香剤・スライム作成、クラゲ・展示品の紹介の累計参加者数が1,007人となっており多くの方々に科学の学びの場を提供することが出来た。今年度は、今までに行っていなかった全反射カードとソーマトロップを作成した。新実験を行うことで、子供たちにより多くの科学に関する知識を教

えることが出来た。これらのことから、例年より多くの子供たちに科学の魅力を伝えられ、山形県における科学技術分野を担う人材を育成することに貢献できたと考える。

②今後の展望

来年度は、今年度に増して実験教室の規模をさらに大きくし、現在は既存の実験を多く行っているが、来年度は新実験を多く行いたい。そうすることによって、子供たちに科学の魅力をさらに感じてもらいたい。そのためにも、新実験に向けた実験の手順・原理説明のプリントの作成・科学実験教室の広報を進めていく。結果として、科学技術分野を担う人材の育成に貢献できればと考える。



SCITA センター学生スタッフ Twitter

や Instagram も行っています！

TEL:023-628-4506

HP:<http://www.yamagata.ac.jp/scita/>